

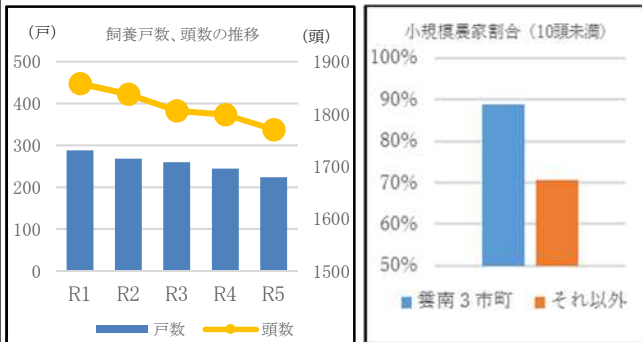
10年後の姿を描く雲南地域和牛振興ビジョンが始動

1. 肉用牛の飼養状況(R5年実績)

【肉用牛飼養農家戸数】 223戸(30.1%)
 うち繁殖経営戸数 213戸(32.4%)
 【肉用牛飼養頭数】 7,032頭(21.6%) ※()は県全体
 うち繁殖牛頭数 1,770頭(16.1%) 占めるシェア

2. 取組の経過及び概要

雲南地区(雲南市、奥出雲町、飯南町)は古くからの畜産地帯であるが、**高齢化が進み、飼養戸数・頭数が減少**。他地域に比べて経営構造の転換が遅れ、頭数減少に歯止めがかからない状況。



その要因は、産地としての目標設定・将来ビジョンが明確でなく、新たな担い手確保の取組も進んでいないことにあることから、**早急に生産者や関係団体が一体となり肉用牛産地ビジョン作成が必要**。そのため、R3年から**畜産担当者(3市町・JA・県)で検討会を設置**して、課題の洗い出しとその対応策の協議を開始。R4年には、現状把握と産地の目指す方向性を明らかにするため**生産者アンケートを実施**。R5年に具体的なビジョン及び支援施策について協議。

- 【アンケートから見えてきたポイント】
- 数年間で規模縮小、廃業の意向が3割以上
 - 産地維持発展に必要な事項 (回答数が多い順)
 - ① 新たな担い手確保
 - ② 後継者育成

加えて、以下の新たな担い手確保対策に着手。
 (1) **担い手育成農場(来島牧場・中国牧場)と連携**し農林大学校生、農林高校生等を対象として**インターシップ研修会**を開催。
 (2) 空き牛舎や継承希望農場の掘り起こし、就農希望者を呼び込むための**就農パッケージ**を作成するなど**就農支援体制を強化**。

3. 取組の成果

(1) **雲南地域が目指す10年後の姿**
 畜産担当者検討会で、産地として10年後の雲南地域の和牛振興のあり方を検討。ビジョン及び支援策について関係機関で合意形成し、R6年から取組開始予定。

雲南地域和牛振興ビジョンの概要

新たな担い手確保・育成を重点的に推進し、**県内一の繁殖産地規模へ回復**

改良組合(生産者)主体の取組(和牛改良、地域資源の利用等)を実践

管内肥育農家が連携した「奥出雲和牛」の拡大と**和牛生産一貫体制の再構築**

新規就農者を呼び込むために「奥出雲和牛」の**知名度向上と販路開拓**

(2) **新たな担い手確保に向けた動き**

- ① 農林高校生等の雲南地域畜産業への認識向上
 農場の雰囲気、経営方針等を見聞きすることで魅力を感じ、R6年に2名が研修先へ雇用就農予定。
- ② 新規就農者の受入体制づくりが始動
リース牛舎整備に向けた候補地検討等の新たな動き。
- ③ 就農相談会への参加
 畜産担い手確保に向けて**就農相談会に初めて参加**。



代表者から一言

これまで雲南地域では**将来ビジョンが不明確で、振興計画に具体性がなかった**。今後の和牛改良、担い手確保等を考える上で**ビジョン作成は不可欠**。

帯刀一美 雲南市和牛改良組合

4. 課題と今後の取組方向

- (1) ビジョン実現に向けた進捗管理、検証の徹底
- (2) 生産者の能動的活動を誘導、支援
- (3) 若手生産者の着実な規模拡大
- (4) 新規就農希望者の掘り起こしと**就農候補地確保**